

滋賀県で一番東の古墳 三塚古墳

伊吹山麓の上野で発掘された古墳時代後期(約1,400年前)の古墳です。水田のなかに大きな石灰岩が露頭したふたつの塚があり、昔から「ミミ塚」「人塚」とよばれ、一説には関ヶ原の戦いに由来するお墓といわれていましたが、発掘調査で古墳であることがわかりました。

ミミ塚古墳は、過去の水田開発で墳丘が失われていましたが、当初は、丘陵地の緩斜面を掘りこみ、石材を据えて横穴式石室を構築したあと、盛土が施されました。調査では、古墳をめぐる周溝が約3分1程度のこっていたことから、直径約15mの円墳だったと考えられています。構造は、横穴式石室で、天井と羨道部分の一部は失われていました。のこっている石室の大きさは、全長約6.5m、幅約1.1~1.8m、高さは最も高いところで、1.9mあります。このうち奥から約4.7mが玄室(棺を埋葬する部屋)で、羨道(玄室への通路)は約1.8mでした。玄室と羨道の境の床面には、仕切りの石が置かれていました。石室に使われていた石材のほとんどは伊吹山の石灰岩です。玄室内からは、台付壺や鉢、甑などの土師器、高坏や坏身などの須恵器、鹿角製柄付きの鉄刀と鉄製鍔付きの鉄刀や鉄鎌、馬具などの鉄製品、金銅製の耳環(耳飾り)1組など、死者にささげた副葬品と、人骨片などが出土しました。

伊吹山麓の古墳時代の動向を物語るとともに、甑や台付壺など東海地方との関係をうかがわせる副葬品があり、滋賀県で最も東に位置する貴重な古墳です。



ミミ塚古墳石室



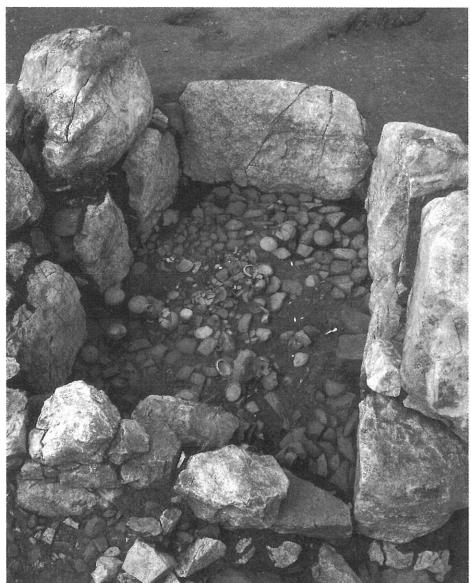
ミミ塚古墳出土遺物



ミミ塚古墳移設状況（伊吹山文化資料館）

人塚古墳

ミミ塚古墳の石室は伊吹山文化資料館に復元されています。ミミ塚古墳よりさらに山手の水田中にあった人塚古墳も、直径約11.4m前後の円墳です。墳丘はすでに削られており、石室も天井石や羨道部分が失われていました。横穴式石室の残存長は幅約3m、奥行き約2.7m、高さ約1.7mでした。副葬品は多く、大半は須恵器で、鉄鎌や刀子などがありました。みつかった状況や量から2回の追葬(時期の異なる埋葬)がおこなわれたと考えられています。古墳の構造や土器から6世紀後半から7世紀前半頃の古墳だと考えられています。



人塚古墳遺物出土状況

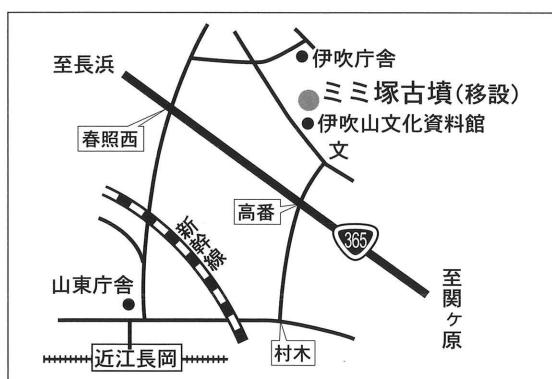
※写真はいずれも滋賀県埋蔵文化財センター提供



人塚古墳出土遺物



古墳からの眺め



ミミ塚古墳

- 所在地 滋賀県米原市春照（移設先）
- アクセス JR東海道線近江長岡駅下車。バス利用。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-8020
平成24年度 市内遺跡保存活用事業